

ごみ減量大作戦の第3弾は、燃えるごみに混入されている金属類などの不燃ごみが約2.7%（換算すると年間約320トン）、資源物が約1.5%（換算すると年間約180トン）もあることに着目し作戦を実行します。この燃えるごみに混入されている不燃ごみの中には、空カンや空ビン、乾電池、小型家電などがありました。分別しないで燃やされる不燃ごみは、資源として再生できないばかりか処理施設の寿命を短くしたり、埋立処分ができなくなるなど問題を起こします。マナーを守って決められたとおりに分別し、燃えるごみに不燃ごみや資源ごみを混入させないようにしましょう。

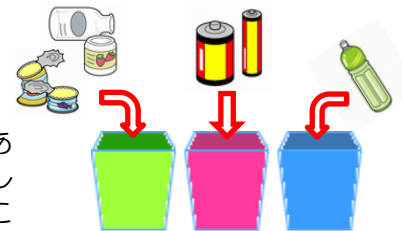


作戦方法

ごみの分別はごみ箱の設置から



① 上手くごみ分別が出来ずに、ついつい燃えるごみに入れてしまうのは、それぞれに分別するためのごみ箱や入れ物がなかったりするケースがあります。当然、入れるところが無いのですから燃えるごみに混入されてしまいます。まずは、ごみの分別種類ごとにごみ箱や入れ物を設置するところから始めましょう。



② 乾電池や充電電池などは、家電量販店などでも回収を行っています。回収ボックスのあるお近くの家電量販店を利用しましょう。また、プリンターなどのインクカートリッジなども回収を行っているところもありますので利用しましょう。



③ 携帯電話やスマートフォン類の小型家電は、燃えるごみに混入されることがあります。小型家電は、市内の公共施設6ヶ所で回収ボックスを設置していますのでご利用ください。小型家電は、希少金属が多く含まれており、2020年東京オリンピックのメダルを小型家電から集めて作る「都市鉱山から作る！みんなのメダルプロジェクト」に本市も参加しています。各家庭に眠っている不要な携帯電話やスマートフォンなど小型家電があれば、回収ボックスに投入するとリサイクルされ、世界のメダリストに過去のオリンピックでは例のない素晴らしいメダルが届けられるはずですよ。



詳しくは、「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」専用 Web サイトをご覧ください。  
<http://www.toshi-kouzan.jp/>

- (回収しているもの)
- ①携帯電話・スマホ、②デジタルカメラ、③小型ビデオカメラ、④卓上計算機、⑤携帯ゲーム機、⑥携帯音楽プレーヤ、⑦電子辞書、⑧ICレコーダー、⑨USBメモリ・PCメモリなど小型の家電製品

- (小型家電回収ボックス設置場所)
- 市役所、体育館、市立中央公民館、総合運動公園、総合福祉会館（ゆうゆうセンター）、葛城コミュニティセンター

燃えるごみに混入されたカンやビン、乾電池や小型家電はどうなるの？

燃やされたカンは、ほぼ形のまま焼却灰と一緒に排出されるため、コンベヤが故障したり問題を発生させます。またビンなどは溶けることにより燃焼室に貼りつき、焼却炉が停止するなど問題を発生させます。電池や小型家電などは、鉛などの重金属が使われているため、最悪焼却灰の埋立処分ができなくなるなど問題を発生させることがあります。分別を守ることは、焼却炉を守ることに繋がります。